【資料1】

第１号議案　2024年度事業報告（案）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会2024年度の経過

2024年度、当協会は、以下の事業を実施しました。

第38回リハ工学カンファレンスin東海を、開催しました。日本福祉大学を会場とし、中部支部の会員を中心として実行委員会を組織しました。中部支部の皆様、ありがとうございました。久しぶりの中部支部開催で多くの会員の参加もありました。

福祉機器コンテスト2024は、特別協賛、協賛企業様にご支援いただき、募集から一次選考会、第38回リハ工学カンファレンスin東海での二次選考会を経てH.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）の出展社プレゼンテーションの場で、受賞作品の表彰へと進めました。また昨年に引き続き、厚生労働省と（公財）テクノエイド協会の協力を得て、障害者自立支援機器「ニーズ・シーズマッチング交流会2024」大阪会場、東京会場において、当該事業および受賞作品の広報を当協会ブースで行いました。

協会誌はVol.39 No.3からVol.40 No.2まで4回発行しました。特集内容は多岐にわたり、論文投稿も増えました。電子化によるアクセスの向上も進みました。帝京平成大学の徳田良英氏から関西福祉科学大学の有久勝彦氏に、円滑に協会誌編集委員長を担っていただき、委員会内組織として、2つの小委員会も、村岡健史氏と並木重宏氏に運営をお願いすることができました。協会員の皆様の積極的な投稿を期待しています。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG（Special Interest Group）関連は基本的に内部化についての理解は得られ、必要な手続きをしていただき、長年の懸案を解消できる方向にまでなりました。対面開催のSIG講習会企画も開催されました。多くの参加者で、今後もより多くの企画が進むことを期待しています。

地域支部は、Web会議システムを利用して、企画した支部のイベントに、離れた地域からも参画できる仕組みが継続的になりました。支部内は距離的には近いとはいえ、支部としての対面開催は、いずれも厳しいものがあります。各支部でできることを協会としても更に支えていきます。協会本部主導のイベント、リハエ ミライ・アッセンブリーと、さらなる連携を進めます。

災害対策は、災害対策委員会を中心に継続して積極的に動きました。（一社）日本災害リハビリテーション支援協会JRAT（Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team）に参画し、活動しました。地域での活動も連携が可能になった事例もありました。協会としては、継続的に他のJRAT加盟団体と情報共有し、適切な支援の継続を進めます。委員会主導では、第38回リハ工学カンファレンスin東海でのセミナー・展示を実施しました。セミナーは反響が大きかったこともあり、公開方法を検討します。

企画推進事業は、リハエ ミライ・アッセンブリーを定期開催することが出来ました。対面開催イベントが再開され、出展者セミナーも継続的に対応することが出来ています。バリアフリー2025では、関西支部の島本卓氏から、テーマ「重度身体障害者の一人暮らし」のセミナーを開催しました。多くの参加者で、好評でした。

国際連携は、GAATO（Global Alliance of Assistive Technology Organizations）加盟団体として、総会、理事会に参加し、GAATOが進める支援機器の効果に関する国際的な検討、世界保健機構（WHO）との協力・連携事業にも積極的に参加しました。また、CREATe ASIAのカンファレンスについても、ホームページ、協会誌にて情報共有をしました。

総務関連では、協会が一般社団法人として問題解決を図りながら、より適切な活動を進めます。インボイスも対応可能な状況になり、適切な財務事務を、さらに徹底します。協会誌の電子化に伴い、事務局業務の電子化への道筋についても、さらに検討を進めます。

以上、2024年度の事業の概要について、ご報告させていただきます。

代議員・役員選挙に関しては、遅延が発生し、年度内での成立が出来ませんでした。大変申し訳ありません。円滑な協会活動が出来るように、努力いたします。

理事会の対面開催で、多くの問題解決をすることが出来ました。事業の推進を更に進めるために、活動を積極的にしていきます。これまでの会員の皆様の協力に感謝し、事業の概要報告を終わらせていただきます。

会長 河合 俊宏

１　社員・会員

１．１　法人社員・会員

2024年7月1日　正会員548名（うち社員（代議員）65名)、学生会員8名
賛助会員数13社（43口）

2025年6月30日　正会員522名（うち社員（代議員）65名)、学生会員11名
賛助会員数14社（46口）

２　事業

当協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2024年度の活動を報告する。

２．１　リハ工学カンファレンス関連（担当理事：鈴木太・渡辺崇史）

（１）第38回リハ工学カンファレンス in 東海　開催

・テーマ：出会いが生むミライ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～

・開催日：2024年8月23日（金）～25日（日）

・会場：日本福祉大学東海キャンパス(愛知県東海市)

・大会長：渡辺崇史氏（日本福祉大学健康科学部　教授　福祉テクノロジーセンター長）

・実行委員長：長束晶夫氏（名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ）

・発表数86演題、　参加者数302名

<併設事業>

・2024年8月25日（日）　市民公開講座として駅前広場イベントを開催

・2024年9月7日（土）　ポストカンファレンスをオンライン形式で実施（4演題、参加者数41名）

（２）第39回リハ工学カンファレンス in 東京　準備

・テーマ：アクセシブルな未来のデザイン

・開催日：2025年8月8日（金）～10日（日）

・会場：東洋大学 赤羽台キャンパス（東京都北区）

・実行委員長：高橋良至氏（東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授）

２．２　福祉機器コンテスト関連（担当理事：村田知之）

（１）福祉機器コンテスト2024

１）協賛

・特別協賛フランスベッド株式会社はじめ、協賛企業3社の支援により実施

２）一次選考会の開催

・機器開発部門　応募15作品（会員4件、非会員11件）から8作品を選出

・応募31作品（会員1件、非会員30件）から9作品を選出

３）二次選考会の開催

・機器開発部門・学生部門を選考委員参集及びWeb会議システムによるハイブリッド形式で開催
機器開発部門は、応募者によるプレゼンテーション及び実機による審査を実施
学生部門は、実機による審査を実施
開催日：2024年8月24日（土）

４）発表及び表彰

・第38回リハ工学カンファレンスin東海のプログラム内で、受賞結果を報告
開催日：2024年8月25日（日）

５）展示、広報

・第38回リハ工学カンファレンスin東海での機器開発部門及び学生部門一次選考会通過作品の展示
開催日：2024年8月23日（金）～25日（日）
・H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）出展社プレゼンテーションにおいて、受賞作品の紹介と表彰を実施
開催日：2024年10月4日（金）
会場：東京ビッグサイト東展示ホール（東京都）
・ニーズ・シーズマッチング交流会（大阪会場）での受賞作品紹介
開催日：2024年11月25日（月）～27日（水）
会場：大阪マーチャンダイズ・マート（大阪府）
・ニーズ・シーズマッチング交流会（東京会場）での受賞作品の展示とセミナーでの講演
開催日：2024年12月10日（火）～12日（木）
会場：東京都立産業貿易センター（東京都）
・協会ホームページへの掲載
・会員メーリングリストでの配信
・協会誌への掲載
・SNS（協会公式アカウント）への掲載

（２）福祉機器コンテスト2025

１）福祉機器コンテスト2025事務局の設置　2025年3月1日（土）

２）選考委員会の設置　2025年4月1日（火）、選考委員依頼

３）後援団体への後援名義使用申請、企業への協賛依頼

４）広報開始　2025年4月中旬から

５）募集期間

・機器開発部門：2025年4月14日（月）～5月31日（土）
・学生部門：2025年4月14日（月）～5月31日（土）

６）申込数

・機器開発部門　応募数：13件（会員4件、非会員9件）
・学生部門　応募数：18件（会員0件、非会員18件）

７）展示、広報

・協会ホームページへの掲載
・会員メーリングリストでの配信
・協会誌への掲載
・SNS（協会公式アカウント）への掲載
・ニーズ・シーズマッチング交流会（大阪会場）：2024年11月25日（月）～27日（水）
・ニーズ・シーズマッチング交流会（東京会場）：2024年12月10日（火）～12日（木）

・バリアフリー2025：2025年4月16日（水）～18日（金）

2．3　協会誌関連（担当理事：植田瑞昌・小島みさお）

（1）協会誌編集委員会

年4回協会誌の発行に合わせて必要に応じて委員会を開催

（任期中4回のうち初めと終わりの2回は対面での開催）

（2）協会誌発行

以下について、企画・準備・発行を実施

・Vol.39 No.3　「災害対応のアップデート」

・Vol.39 No.4　「福祉用具に求められるデザイン」

・Vol.40 No.1　「挑戦への第一歩～パラスポーツで叶える自分の可能性～」

・Vol.40 No.2　「介護ベッド（特殊寝台）の活用で生活をより豊かに」

（3）投稿論文（査読依頼）

2024年度投稿9件の査読者選定・査読依頼・結果通知を進行

・投稿論文については、査読論文小委員会にて査読者を選定・依頼

・2024年4月から投稿規定が改訂され、年4回の締め切りを設けたため、委員会をあらかじめ設定することができ、迅速に対応が可能となった。

（4）協会誌の段階的電子化

・協会誌電子化作業のうち J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）搭載を株式会社ジェイピーシーに依頼し、1 年間は認証付きで、1 年を経過したものはフリー公開している。さらにバックナンバーを順次掲載している。

・今般の郵送費の高騰（送料の倍増）と電子ジャーナルにおける情報保障、SDGｓの観点から紙媒体での発行回数の見直し及び電子化も含め見積もりを依頼

・会員向けアンケート調査の結果を協会誌Vol.40 No.2に掲載

（5）協会誌編集委員会事務局委託

協会誌編集委員会事務局幹事を松田健太氏（神奈川県総合リハビリテーションセンター）に委託

（6）その他

第38回リハ工学カンファレンスin東海にて座長推薦を行い、優秀発表賞を授与した。受賞者は3名となった。そのほか、座長推薦のあった発表者には論文投稿を促し、投稿につながっている。

2．4　分科会（SIG）（担当理事：桂律也）

（1）SIG活動支援　（各SIGの活動報告を別紙1に記す）

・7月に車いすSIG、11月にSIG姿勢保持が法人内に設置され、コミュニケーションSIGとSIG住まいづくりについても、2024年度内に設立申請を提出できるように調整を図った。

・各SIG主催の講習会等に、広報等で協力し、申請のあったものについては活動費を支給

・第38回リハ工学カンファレンスin東海でのSIGセッション開催、第39回リハ工学カンファレンスin東京でのSIGセッション開催要請等協会事業への協力を要請

（2）SIG合同企画の開催

・SIG合同企画については、時期・内容・場所等を含めた実現可能性の検討を行ったが、実現に至らず次年度以降に持ち越しとなった。

2．5　分科会（支部）・専門委員会（担当理事：小島みさお・植田瑞昌）

（１）支部活動への支援　（各支部の活動報告を別紙２に記す）

・各支部ではリハ工学に関わる人的ネットワークを構築できるよう、協会誌やホームページで支部の活動情報を掲載し、会員への周知を図った。各支部で活動状況に差があるので、本部や他の委員会と協力し、さらなる支部活動への支援を積極的に行った。

・継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金を配分

・活発な活動が行えた支部については、随時、協会誌またはホームページにて活動を報告

・活動が行えていない支部もあり、体制の構築に向けて検討

・支部活性化のための情報発信の簡便化や効率化等について検討し、一部の支部でLINEオープンチャットの利用を開始

（２）リハエ ミライ・アッセンブリー等イベント協力

・第6回、第7回リハエ　ミライ・アッセンブリー、全国頸髄損傷者連絡会との連携セミナーの開催に向けて企画提案・運営協力

・H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）、ニーズ・シーズマッチング交流会（大阪会場、東京会場）、バリアフリー2025等のイベント協力

（３）2025年度活動計画

・次年度の活動計画を作成

・リハ工学カンファレンスにて、地域支部メンバー間の交流、活動を行えていない支部の体制構築に向けたイベント実施を検討

２．６　企画推進事業（企画担当理事：伊佐拓哲・中村詩子）

（１）研修企画委員会

・「研修企画委員会」を専門委員会から事業委員会に移行し、常設化

（２）協会主催セミナー等事業

１）バリアフリー2025出展社セミナー開催

・テーマ：「重度身体障害者の一人暮らし」

・会期：2025年4月16日（水）15：30～16：30

・会場：セミナー第5会場（参加者38名）

・講師：島本卓氏（全国脊髄損傷者連絡会）

２）連携セミナー開催

・テーマ：「電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～」

・会期：2025年5月31日（土）13：30～16：30

・会場：KOBE Co CREATION CENTER（会場参集及びWeb会議システムによるハイブリッド形式）

・参加者：会員22名、非会員28名、全国頸髄損傷者連絡会21名、団体協賛4社

・講師：三神崇人氏（理学療法士・コーディネーター）、宮野秀樹氏（全国頸髄損傷者連絡会 事務局長）、大関菜摘氏（看護師・トータルヘルスケア）

（３）リハエ ミライ・アッセンブリー等の開催

１）第6回リハエ ミライ・アッセンブリー開催

・テーマ：「車いすや電動車いす、福祉用具を選定・入手するための制度としくみを学ぶ」

・会期：2024年12月1日（日）10：00～12：00

・会場・参加者：Web会議システム・申込61名、瞬間最大アクセス52名

・講師：井村保氏（中部学院大学）、芝崎泰造氏（日本車椅子シーティング協会）、渡辺崇史氏（日本福祉大学）

２）第7回リハエ ミライ・アッセンブリー開催

・テーマ：リハ工おもちゃ箱～医療、福祉、教育、地域を拓く工夫と技術を集めて～」

・会期：2025年5月9日（金）19：00～20：30

・会場・参加者：Web会議システムによるオンライン形式・申込43名、瞬間最大アクセス33名

・講師：六名泰彦氏（吉備高原医療リハビリテーションセンター）、高橋一郎氏（訪問看護ステーションおたすけまん）、圓井美貴子氏（徳島県肢体不自由児者父母の会連合会）、鈴木太氏（愛媛頸髄損傷者連絡会）

（４）協会設立40周年記念事業の検討

・専門委員会「40周年記念事業委員会」を設置

２．７　事業統括事業（事業統括担当理事：金井謙介）

（１）学会展示会、広報活動強化

１）H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）へ出展

・開催日：2024年10月2日（水）～4日（金）

・会場：東京ビッグサイト東展示ホール（東京都）

・協力支部：関東・甲信越支部

２）ニーズ・シーズマッチング交流会2024へ出展

・開催日：大阪会場 2024年11月25日（月）～27日（水）、東京会場 2024年12月10日（火）～12日（木）

・会場：大阪マーチャンダイズ・マート（大阪府）、東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都）

・協力支部：関西支部、関東・甲信越支部

３）バリアフリー2025へ出展

・開催日：2025年4月16日（水）～18日（金）

・会場：インテックス大阪（大阪府）

・協力支部：関西支部

（２）セミナー開催

１）H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）出展社プレゼンテーション実施

・テーマ：「最先端の福祉用具紹介～福祉機器コンテスト2024受賞から～」

・開催日：2024年10月4日（金）　10:30～11:30

・講師：村田知之氏（福祉機器コンテスト担当理事）

・参加：45名

２）バリアフリー2025 出展者セミナー実施

・テーマ：「重度身体障害者の一人暮らし」

・開催日：2025年4月16日（水）

・会場：インテックス大阪（大阪府）

・講師：島本卓氏（関西支部）

・協力：関西支部

・参加：38名

（３）情報保障の拡充

リハ工学カンファレンス等にて情報保障の実施できる体制を整備したが、本年度は使用実績なし

２．８　国際関連の事業（担当理事：森田千晶・桂律也）

（１）国際関連団体との相互協定に基づく交流

１）GAATO（Global Alliance of Assistive Technology Organizations）
・理事派遣：国際関連推進委員会からGAATO理事として各種委員会出席（オンライン形式）
２）RESKO(Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society of Korea)、TREATS(Taiwan Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society)との協定による各団体カンファレンスへの各団体代表の参加支援
・当協会代表者の関連団体（CREATe Asia:The Coalition on Rehabilitstion Engineering & Assistive Technology of Asia、RESKO、TREATS、RESNA:Rehabilitation Engineering &Assistive Technology Society onNorth America等）への参加希望者の参加支援

（２）国際連携推進委員会の開催
・理事会のもとに協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、Web会議またはメールにて年2回程度または必要時に委員会を開催
・関連団体が開催するカンファレンス等の会員への情報提供

２．９　災害対策関連（担当理事：早川康之）

（１）災害対策委員会活動
・7回の対面及びWeb会議による委員会を開催し、災害対策に関する啓発セミナー実施について検討

（２）災害対策セミナー等の開催
・リハ工学カンファレンス内で災害対策セミナーの開催、災害対策用品、段ボール家具等を展示
（セミナー 2024年8月24日(土)　参加者約30名　展示 2024年8月23日（金）～25日（日））
・八王子いちょう祭りでの一般市民を対象とした災害対策セミナー及びワークショップの開催、災害対策用品、段ボール家具等を展示　（2024年11月16日（土）～17日（日）　来場者約420名）

（３）災害対策マニュアルの作成
・ホームページへのセミナー内容の公開を検討

（４）他団体との協働
・日本災害リハビリテーション支援協会Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team（JRAT）の正会員として、理事会、各委員会活動へ参加
・地域JRAT（北海道JRAT）へ、リハ工学協会として参加

３　総務

３．１　選挙・規則（担当理事：江原喜人）

（１）2025年度代議員選挙・役員候補者選挙
・代議員及び役員の任期満了に伴いWeb選挙システムによる代議員選挙、役員候補者選挙の準備
・代議員選挙ならびに役員候補者選挙において選挙管理委員会に対して支援

（２）規定の整備
・各種規則等の規定状況を確認し、運用上の問題点や改訂の必要性等について検討

３．２　財務（担当理事：江原喜人・桂律也・金井謙介）

（１）法人会計の管理
・2023年度決算の実施及び決算書作成
・四半期決算の実施及び2024年度決算の実施
・インボイス、資産管理等に関する会計士への確認
・2025年度予算案の作成

（2）分科会・支部の連結決算の準備

・分科会・支部の会計状況の把握

・会計システムの構築

（3）その他

・カンファレンス及びコンテストの会計管理に関する検討

3．3　総会･理事会（担当理事：北野義明・江原喜人）

（1）2024年度社員総会の開催

・2024年度定時社員総会

開催日：2024年8月24日（土）11:40～12:40

会場：日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市）

（2）2024年度理事会の開催

・第1回(通算第92回) 2024年7月21日(日)（対面及びWeb会議）

・第2回(通算第93回) 2024年10月6日(日)（Web会議）

・第3回(通算第94回) 2024年11月2日(日)～11日(月) 臨時理事会（電磁的手段）

・第4回(通算第95回) 2024年12月15日(日)（Web会議）

・第5回(通算第96回) 2025年3月2日(日)（対面会議）

・第6回(通算第97回) 2025年6月8日(日)（対面会議）

（3） 2025年度社員総会の準備

2025年度定時社員総会の開催について、各理事に「2024年度事業報告」及び「2025年度事業計画書・予算要求書」の提出を依頼し、「2024年度事業報告(案)」及び「2025年度事業計画(案)」を作成

3．4　広報・渉外（担当理事：小林博光・鈴木太）

（1）協会リーフレット印刷

・残部数の確認を行い、適宜500部印刷

（2）Web会議システム利用

・Web会議システムによる理事会及び関連会議、各種イベントの適宜開催設定、レコーディングデータの管理（一定期間の保存と削除）

（3）外部ストレージ利用

・使用状況及び残容量を確認

（4）Web・メールサーバー運用管理

・Webコンテンツの情報更新、メーリングリストやメールマガジンの登録及び変更、メールアドレス管理、メールニュース送信

・迷惑メールフィルタリング操作、メーリングリスト不達現象調査及び対策

・ドメイン管理を「名づけてねっと（株式会社NTTPCコミュニケーションズ)」から「ムームードメイン（GMOペパボ株式会社)」へ変更

（5）その他

・インターネットを利用した会員登録システムと会費徴収システムの調査

・広報用公式SNSの管理運用についての確認・調査

・動画共有サイトへのSIGイベント映像のアップロード

4　事務局（事務局統括理事：江原喜人）

（１）事務局運営

・法人としての事務局運営及び法人会計の更なる整備

（２）会員情報管理システム導入検討

・年間利用料の負担が協会の全体予算に対して大きいことから昨年度に引き続きシステム導入を見送り、システムに関する情報収集や調査、検討を継続

（３）展示会出展における広報活動

・2024年10月2日（水）～4日（金）H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）（東京都）、2025年4月16日（水）～18日（金）バリアフリー2025（大阪府）に出展し、ブースにおける広報活動を実施

５　後援・協賛事業

2024年度は以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	NPO法人ケアリフォームシステム研究会	2024年7月6日	第21回ケアリフォームシステム研究会 全国大会in兵庫
2	後援	一般社団法人日本福祉のまちづくり学会	2024年8月30日～9月1日	日本福祉のまちづくり学会 第27回全国大会
3	協賛	一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人日本生活支援工学会、一般社団法人日本機械学会	2024年9月12日～14日	LIFE2024 ※生体医工学シンポジウム(公益社団法人生体医工学会)との合同開催
4	協賛	特定非営利活動法人 ヒューマンインタフェース学会	2024年9月18日～20日	ヒューマンインタフェースシンポジウム2024
5	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2024年11月6日～9日	第8回アジア太平洋作業療法学会 11/9～10：第58回日本作業療法学会
6	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2024年11月9日～10日	第58回日本作業療法学会
7	協賛	感覚代行研究会	2024年12月2日～6日	第50回（2024年）感覚代行シンポジウム
8	後援	特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会	2024年12月14日～15日	第19回日本シーティング・シンポジウム
9	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2024年12月18日～20日	第25回システムインテグレーション部門講演会（SI2024）
10	後援	一般社団法人日本身体障害者補助犬学会	2025年1月11日～12日	日本身体障害者補助犬学会第16回学術大会
11	後援	NPO法人ケアリフォームシステム研究会	2025年4月21日	NPO法人ケアリフォームシステム研究会 第22回全国大会inさいたま
12	後援	特定非営利活動法人 バイオフィリア リハビリテーション学会	2025年4月26日	第28回バイオフィリアリハビリテーション学会大会
13	後援	公益社団法人日本理学療法士協会	2025年5月31日～6月1日	第60回日本理学療法学術研修大会
14	後援	第6回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会	2025年6月19日（オンライン併用）	第6回福祉用具専門相談員研究大会

【別紙１】

2024年度　SIG活動報告

※SIG会員数（協会員数）は2025年6月1日現在

SIG姿勢保持　会員数：27名　ホームページURL https://www.resja.or.jp/posi-sig/
代表者：繁成剛氏、　事務局長：児玉真一氏
・WEBサイト運営、会員専用MLへの情報発信、リハ工学協会事業への協力
・役員会：2025年1月20日（月）
・講習会：2024年8月3日（土）・4日（日）　主会場：横浜ラポール
　会場参集及びWeb会議システムによるハイブリッド形式で開催
・次年度講習会準備委員会：2025年3月17日（月）、4月3日（木）、4月28日（月）、5月29日（木）
・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第2版）や資料集PDF版の販売

車いすSIG　会員数：39名　ホームページURL https://www.wheelchair-sig.jp/
代表者：沖川悦三氏、　事務局長：深野栄子氏
・役員会開催
・車いすSIG講習会開催　2025年5月24日（土）～25日（日）　横浜市スポーツ医科学センター（神奈川県横浜市）
・車いすの歴史調査報告会　2024年10月19日（土）～20日（日）　加瀬ビル88（神奈川県横浜市）
・歴史的文化財（昭和初期と思われる車椅子）調査
・新聞社からの取材（車いすの歴史）
・WEBサイト運営、講習会の案内メール配信
・日本車椅子シーティング協会車椅子姿勢保持基礎講習会（障害分野）の共催
・リハ工学カンファレンスでの座長、SIGセッション、プレカンファレンス等、報告会動画の協会アカウントSNSでの公開等、本協会事業への協力
・講習会テキストのバックナンバー及び関連書籍の頒布
・車いすSIG設立35周年／講習会30周年／開催50回記念誌の頒布

自助具SIG　会員数（Facebookグループ登録者）46名　ホームページなし
代表者（事務局兼務）：岡田英志氏
・第38回リハ工カンファレンスin東海での自助具SIGのセッションへの参加

乗り物SIG　会員数：5名　ホームページURL https://ameblo.jp/sunrisejp007/
代表者：麩澤孝氏、　事務局長：片石任氏
・SIGブログの更新、充実、情報提供・発信、セミナー開催
・カンファレンスプレイベントでのパネリストほか、当協会事業への協力

SIG褥そう防止装置　会員数10名　ホームページURL https://www.resja.or.jp/sig-pmps/
代表者（事務局兼務）：新妻淳子氏
・具体的な活動実施はできなかったが、会員それぞれが褥瘡予防の啓発行動にかかわる

コミュニケーションSIG　会員数10名　ホームページ改修中

代表者・事務局長：上野忠浩氏
・法人内SIGへの移行検討、準備

SIG住まいづくり　　会員数：31名　　ホームページURL http://www.sig-sumai.info
代表者：橋本美芽氏、　事務局長：鈴木基恵氏
・SIG内部化移行作業
・活動方針の検討

特別支援教育SIG　　会員数5名　　ホームページなし
代表者：松田靖史氏、　事務局長：高原光恵氏
・リハ工学協会関連行事への参加（ミライ・アッセンブリ等）
・教育情報チラシの作成、協会事業への協力

移乗SIG　　会員数：16名　　ホームページ作成中
代表者：古田恒輔氏、　事務局長：青木久美子氏

義肢装具SIG　　会員数：23名　　ホームページURL https://resja.or.jp/po-sig/
代表者：笹川友彦氏、　事務局長：砂野義信氏
・ホームページ運営

【別紙2】

2024年度　支部活動報告

東日本支部

（1）事業概要

東日本支部は、広域であり、会議・セミナー・勉強会等については、Web 会議システム等を活用する検討を継続して行った。東日本大震災等の災害の経験を活かして、地域 JRAT と支部の協力体制を構築していきたいと考えていたが、具体的な活動には至らなかった。

関東・甲信越支部

（1）事業概要

関東・甲信越支部では、H.C.R.2024（第 51 回国際福祉機器展）や第 45 回八王子いちょう祭り、自立支援機器ニーズ・シーズマッチング交流会 2025 に出展しているブースの運営に協力した。

（2）主要事業

オープンチャット（LINE）「リハ工関東・甲信越支部」の開設

（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力

1）H.C.R.2024（第51回国際福祉機器展）ブース運営の協力

・開催日：2024年10月2日（水）～4日（金）

・会場：東京ビッグサイト（東京都）

2）第45回八王子いちょう祭りブース運営の協力

・開催日：2024年11月16日（土）～17日（日）

・会場：イーアス高尾（東京都）

3）ニーズ・シーズマッチング交流会2024（東京会場）ブース運営の協力

・開催日：2024年12月10日（火）～12日（木）

・会場：東京都立産業貿易センター（東京都）

中部支部

（1）事業概要

中部支部では、5回目17年ぶりの開催となる、第38回リハ工学カンファレンス in 東海(2024年8月23日～25日)に向けて実行委員会を設立し、そのプログラムの立案から運営を担当した。また、併設行事となる市民公開講座やポストカンファレンス等の企画と運営実施を行った。

（2）主要事業

1）第38回リハ工学カンファレンス in 東海の運営

・中部支部会員により組織された実行委員会にてカンファレンス運営に尽力

2）第6回ミライ・アッセンブリーへの協力

・日時：2024年12月1日(日) Web会議システムによるオンライン形式

・実施内容の企画立案，当日の運営スタッフ，及び話題提供者として協力

3）支部セミナーの開催

今年度は未開催

4）その他

支部役員会の開催

・開催日：Web 会議システムによるオンライン形式またはメールによる都度開催
・内容：支部事業に関する打ち合わせ

関西支部

（1）事業概要

関西支部では、2024 年度はバリアフリー2025 出展と、ニーズ・シーズマッチング交流会 2024(大阪)への協力を行った。また、協会 全国頸髄損傷者連絡会 連携セミナーを関西支部の企画・運営で実施した。

（2）主要事業

1）日本リハビリテーション工学協会 全国頸髄損傷者連絡会 連携セミナー：関西支部の企画・運営で開催
・開催日：2025 年 5 月 31 日（土）
・場　所：KOBE Co CREATION CENTER　ルーム A・B（センタープラザ 9 階）
・講　師：三神崇人氏、宮野秀樹氏、大関 菜摘氏
・テーマ：「電動車椅子で巡る世界一周報告会～準備編～」
・参加者：71 名（うちリハ工会員 22 名）

2）バリアフリー2025 ブース運営協力
・開催日：2025 年 4 月 16 日（水）～18 日（金）
・会場：インテックス大阪（大阪府）
・内容：支部スタッフの派遣

3）ニーズ・シーズマッチング交流会 2024（大阪）運営協力
・開催日：2024 年 10 月 25 日（月）～27 日（水）
・会場：大阪マーチャンダイズ・マート（大阪府）
・内容：福祉機器コンテスト入賞作品の展示スタッフの派遣

（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力

・協力：日本身体障害者補助犬学会第 16 回学術大会

（4）その他

支部役員会の開催

・第一回　開催日：2024 年 10 月 29 日（火）
　場　所：Web 会議システムによるオンライン形式
　内　容：支部活動費、セミナーの企画、支部ミーティング、カンファレンスについて
・第二回　開催日：2025 年 2 月 4 日（火）
　場　所：Web 会議システムによるオンライン形式
　内　容：カンファレンス、バリアフリー展、関西支部セミナー、役員メンバーについて
・第三回　開催日：2025 年 5 月 7 日（水）
　場　所：Web 会議システムによるオンライン形式
　内　容：カンファレンス、バリアフリー展、役員メンバーについて
・第四回　開催日：2025 年 5 月 31 日（土）
　場　所：KOBE Co CREATION CENTER　ルーム A・B（センタープラザ 9 階）
　内　容：カンファレンス、役員メンバーについて
・第五回　開催日：2025 年 6 月 24 日（火）
　場　所：Web 会議システムによるオンライン形式
　内　容：事業報告、事業計画、カンファレンス、役員メンバーについて

中国・四国支部

支部代表退任に伴い、組織の編成を行い、今後の活動計画の策定を行うべく、有志により活動再開の検討を開始した。

（1）事業概要

8月カンファレンス支部ミーティング時に集まった中国・四国地方の有志により、月1回のオンライン会議を実施。第7回リハ工ミライ・アッセンブリーを担当。

（2）主要事業

1）支部検討・ミライ・アッセンブリー検討会議の開催

・開催日：2024年12月12日(木)、2025年1月16日(木)、2月20日(木)、3月12日(水)、4月17日(木)、5月15日(木)、6月19日(木)の計7回開催

・内容：ミライ・アッセンブリーの内容検討と支部形成について

2）第7回リハ工ミライ・アッセンブリーへの運営協力

・テーマ：リハ工おもちゃ箱～医療、福祉、教育、地域を拓く工夫と技術を集めて～

・開催日：2025年5月9日（金）

・会場：Web会議システムによるオンライン形式

・中国・四国地方有志4人が活動報告

（3）その他

・支部形成に向けた話し合いを行ったが、合意には至らず月1回の会議を維持することになった。

九州支部

（1）事業概要

インターネットラジオ配信（5月末時点26回）を実施し、リハビリテーション工学に関わる情報や知識の普及・啓発を図った。一般市販品やニュースに上がった開発品について、障害者や高齢者の生活支援としての応用も考えられる事案について話題提供を行った。また、掲示板を利用した情報交換の場も設けた。

インターネットラジオ配信サービス「stand.fm」利用　https://stand.fm/channels/65e6f8613e0b28cf81e52982

インターネット掲示板サービス「まめわざ」利用　https://resja9.apage.jp/

（2）主要事業

インターネットラジオ配信サービス「stand.fm」を利用した情報発信

インターネット掲示板「まめわざ」を利用した情報交流

（3）その他

開催日：案件がある場合に都度開催した。役員間メーリングリストを活用

内容：事業報告・決算報告、次年度の事業計画案・収支予算案についての意見交換

九州支部への連絡先メールアドレス：koy@resja.or.jp

第２号議案　2024年度 決算報告（案）／監査報告

「決算報告書」（貸借対照表、損益計算書、事業費･管理費内訳書）をご覧ください。

決　　算　　報　　告　　書

自　令和　６年　７月　１日

至　令和　７年　６月３０日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

神奈川県横浜市磯子区杉田２丁目７番２０号

貸　借　対　照　表

（単位：円）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会　　　令和 7年 6月30日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	4,341,458	【流動負債】	2,016,680
現金及び預金	3,032,827	前受会費等	1,479,000
前払金	485,527	前受金その他	265,000
未収入金	95,000	未払金	118,520
前払費用	28,104	仮受金	49,160
その他流動資産	700,000	預り金	105,000
【固定資産】	11,780	負債の部計	2,016,680
(有形固定資産)	10	正味財産の部	
器具備品	10	【正味財産】	2,336,558
(投資その他の資産)	11,770	正味財産	2,920,121
長期前払費用	11,770	当期正味財産増加額	△583,563
		正味財産の部計	2,336,558
資産の部計	4,353,238	負債・正味財産の部	4,353,238

損　益　計　算　書

（単位：円）

自 令和 6年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会　　至 令和 7年 6月30日

科　　目	金	額
【入　会　金　収　入】		22,000
【会　費　収　入】		
一 般 会 費 収 入	5,040,000	
学 生 会 費 収 入	36,000	
賛 助 会 費 収 入	460,000	5,536,000
【事　業　収　入】		
書　籍　頒　布	22,000	
購読サービス会費	268,750	
協　会　誌　収　入	141,000	
そ の 他 事 業 収 入	1,093,123	1,524,873
【雑　収　入】		12,159
収　益　合　計		7,095,032
【事　業　費】		4,880,007
【管　理　費】		2,798,588
費　用　合　計		7,678,595
当期正味財産増加額		△583,563

事業費・管理費内訳書

（単位：円）

自 令和 6年 7月 1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会　　至 令和 7年 6月30日

科目	金額	
【事業費】		
協会誌編集･発行費	3,719,104	
事業開催費	409,433	
活動費	73,185	
活動補助金	40,000	
会場費	638,285	4,880,007
【管理費】		
講師謝金	16,000	
公認会計士顧問料	264,000	
会議費	184,875	
会費・参加費	126,170	
交通費	856,329	
通信運搬費	123,028	
事務用品費	11,485	
印刷費	56,749	
事務局備品リース料	26,136	
管理委託費	73,331	
事務委託費	720,000	
支払手数料	29,515	
収納代行手数料	128,750	
その他手数料	11,150	
宿泊費	171,070	2,798,588
事業費及び管理費		7,678,595

2024年度 監査報告

2025年(令和7年) 8月　1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
会長　河 合　俊 宏　様

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
2024年度(令和6年度)監査報告書

私たち監事は、当協会定款第60条の規定に基づき2024事業年度(2024年7月1日より2025年6月30日まで)の監査を実施したので、その方法および結果について以下の通り報告します。

１．　監査の方法および内容

各監事は、理事および事務局長と意思疎通を図り、理事会に出席して事業報告を受けたほか、会計帳簿ならびに決算書類につき閲覧調査しました。

２．　監査結果

1)　業務執行状況について監査した結果、理事の職務は法令および当会の諸規定に則り執行されたことを確認しました。

2)　決算報告書、証拠書類等について監査した結果、本会の財産は適正に管理されていたものと認めます。

３．　付帯意見

1)　主要事業であるリハ工学カンファレンスは引き続き対面により開催され、事業収入にもつながりました。その他、ミライ・アッセンブリーや合同シンポジウム、プレカンファレンス等のオンラインイベントも多数企画されました。対面開催とオンライン開催をうまく使い分け、関係各位の努力が継続されています。

2)　課題であった協会誌の電子化について検討を重ねていただいています。電子化時代への流れ、諸物価や郵送費の高騰に対応することになりますが、会員の意見を十分にくみ取っていただき進めていただきたいと思います。

3)　2023年度事業の赤字額からは減額しているものの、単年度赤字の収支となっています。諸物価の高騰が影響していると思いますが、協会活動の活発化と経費削減のバランスを取り適切な対応をご検討ください。

4)　Web選挙システムを利用した代議員選挙及び役員候補者選挙において、法令・定款ならびに関係諸規程に沿った運用はもとより、その実施方法の確認ならびに会員への周知を徹底し、実施については詳細かつ具体的な引継ぎを含め、全ての理事が横断的に対応できる体制を築いてください。

監事　伊藤 和幸
監事　水澤 二郎

【資料4】

第３号議案　2025 年度事業計画（案）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会 2025 年度事業方針

2025 年度の事業方針です。

事業として、第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京を、東京都北区で開催しました。多くの協会員のご参加、ありがとうございました。

福祉機器コンテスト 2025 は、特別協賛、協賛企業様の支援をいただき、決定することが出来ました。受賞作品は、第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京において既に発表をさせていただきました。表彰式は、より多くの方に知っていただくために、H.C.R.2025（第 52 回国際福祉機器展）で執り行う予定です。受賞作品は、ニーズ・シーズマッチング交流会 2025 やバリアフリー2026 会場での展示を予定しており、より多くの方の生活支援へつなげることが出来るよう展開を検討します。

協会誌は、郵送料の高騰という課題に対して、多くのご意見をいただき、電子化と特集の年に一度の合本号とすることを決定しました。即時の電子公開となりますので、協会誌編集委員会特集記事小委員会による、リハビリテーション工学の基礎から応用、今後を示唆する特集をさらに推進していきます。学術的な推進を支える同査読論文小委員会によって、優れた研究も、より早く公開することが可能になると考えています。アクセシビリティの改善が更に可能になります。皆様の更なる積極的な投稿を期待しています。

分科会・専門委員会関連事業として、SIG（Special Interest Group）の対面開催の講習会が実施されます。実施する企画に関しては、案内を地域限定とすることなく、全国的に協会のメーリングリストで情報共有します。また協会誌に参加報告結果が掲載されるようにします。電子化により、より早い情報提供が出来ればと思います。

地域支部は、Web 会議システムを利用して、企画した支部のイベントに、離れた地域からも参画できる仕組みが実証されました。旅費・移動時間と可能性を拡げる方法の一つではあります。もちろん対面開催も大切にし、ハイブリッドも出来る範囲で、進めていきたいと考えています。協会主導のイベントであるリハエミライ・アッセンブリーとも、さらなる連携を進めます。

災害対策は、災害対策委員会が継続して対応します。一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）に参画し、活動します。他の JRAT 加盟団体と継続的な情報共有を行い、適切な支援の継続を進めます。協会独自には、今回の第 39 回リハ工学カンファレンス in 東京でも、セミナー・ワークショップ・展示を実施しました。引き続き八王子いちょう祭りに参画し、災害対策セミナー開催を検討します。

企画推進事業は、リハエ ミライ・アッセンブリーを定期開催します。会員限定で無い、情報発信の場として継続します。中国四国支部の新しい取り組みで、可能性が拡がりました。地域支部はもとより、協会誌連動企画、複数の SIG との連携も検討します。

国際連携は、GAATO（Global Alliance of Assistive Technology Organizations）加盟団体として、継続的に参加します。2025 年度は、アジア・韓国、世界保健機構（WHO）との連携を、より深めていきます。

総務関連では、協会が一般社団法人としての内部課題を更に解消していきます。

財務体制は、さらに徹底します。事務局の強靭化に関しても、検討を進めます。

2024 年度、代議員・役員選挙の準備に問題が発生しました。2025 年度当初から協会員の皆様にご心配をかけることとなり、大変申し訳ありません。理事の数も減ることとなりましたが、執行体制が衰弱しないよう、理

事一丸となり、また委員会活動を積極的にし、協会を発展させてまいります。また、定款改正も検討し、規則・細則を遵守できるよう、対応していきます。

最後に、本年度は協会発足の1986年から40年となります。40周年記念事業を開催します。創成期からの歴代の大切な話題を関連事業とも連携しながら記録し、次の未来に向けた事業の基盤として再確認してまいります。

方針は、以上となります。

2025年度も、皆様よろしくお願いします。

会長　河合　俊宏

1　事業

1．1　リハ工学カンファレンス関連（担当理事：鈴木太・渡辺崇史）

（1）第39回リハ工学カンファレンスin東京　開催準備
- テーマ：アクセシブルな未来のデザイン
- 開催日：2025年8月8日（金）～10日（日）
- 会場：東洋大学赤羽台キャンパス（東京都北区）
- 実行委員長 ：高橋良至氏（東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授）

（2）第40回リハ工学カンファレンス開催準備

（3）第41回リハ工学カンファレンス開催準備

（4）UMIN（大学病院医療情報ネットワーク）継続利用
- 演題募集･登録のためUMINシステムを利用（システムの有料化に対応）

1．2　福祉機器コンテスト関連（担当理事：村田知之）

（1）福祉機器コンテスト2025

1）第二次選考会

機器開発部門は、応募者によるプレゼンテーションおよび実機による審査を実施

学生部門は、実機による審査を実施
- 開催日：2025年8月9日（土）
- 会場：東洋大学　赤羽台キャンパス（東京都）　及び　Web会議システム
- 機器開発部門　応募数：13件（会員4件、非会員9件)、前回は15件
- 学生部門　応募数：18件（会員0件、非会員18件)、前回は31件

2）発表・表彰
- 発表は、第39回リハ工学カンファレンスin東京のプログラム内を予定
- 表彰は、H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）期間内、同会場にて予定

3）展示・広報：
- 第39回リハ工学カンファレンスin東京（東京都）　2025年8月8日（金）～10日（日）
  （一次選考会通過作品の展示）
- H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）（東京都）　2025年10月8日（水）～10日（金）
- ニーズ・シーズマッチング交流会（東京会場）　2025年秋頃
- キッズフェスタ2026（東京都）　2026年4月頃予定
- バリアフリー2026（大阪府）　2026年4月15日（水）～17日（金）
- 協会誌Vol.40 No.3に応募状況について掲載予定
- 協会誌Vol.40 No.4に受賞作品を掲載予定

・協会誌 Vol.41 No.1 に報告を掲載予定

（２）福祉機器コンテスト 2026

１）特別協賛：（予定）　フランスベッド株式会社

２）協賛：（予定）　株式会社ケープ、日本 3D プリンター株式会社、株式会社フロンティア

３）後援：（予定）　厚生労働省、経済産業省、（公財）テクノエイド協会、
（公社）日本理学療法士協会、（公社）日本生体医工学会、（公社）計測自動制御学会、
（公社）日本義肢装具士協会、（一社）日本義肢装具学会、（一社）日本作業療法士協会、
（一社）日本生活支援工学会、（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会、
（一社）日本車椅子シーティング協会、（一社）日本福祉のまちづくり学会、
（一社）日本人間工学会、バイオメカニズム学会、

４）福祉機器コンテスト 2026 事務局の委託（2026 年 3 月 1 日（日）～）

５）選考委員会の設置（2026 年 4 月 1 日（水）～）

６）募集対象：機器開発部門、学生部門

７）広報開始・応募要綱配布：2026 年 4 月中旬

８）募集期間：機器開発部門　2026 年 4 月～6 月、　学生部門　2026 年 4 月～6 月

９）展示・広報　（予定）

・ キッズフェスタ 2026（東京都）（広報）　2026 年 4 月予定

・ バリアフリー2026（大阪府）（広報）　2026 年 4 月予定

（３）コンテスト発展のための取り組み

コンテストの企画内容及び運営方法の見直し

１．３　協会誌関連（担当理事：植田瑞昌・小島みさお）

（１）協会誌編集

・年４回、協会誌の発行に合わせて必要に応じて会場を確保し、協会誌編集委員会特集記事小委員会を開催

・会場利用での対面開催のメリットも大きいため、年２回の対面開催を計画

（２）協会誌発行

以下の協会誌を発行予定

・Vol.40 No.3　2025 年 8 月発行　特集「担い手の育成に向けたリハビリテーション工学教育（仮）」

・Vol.40 No.4　2025 年 11 月発行　特集「新サービス・新製品の開発に携わるいろいろな人達の思いと夢」

・Vol.41 No.1　2026 年 2 月発行　特集「未定」

・Vol.41 No.2　2026 年 5 月発行　特集「未定」

（３）投稿論文（査読依頼）

・年４回、投稿論文の査読者選定及び最終審査に合わせて、査読論文小委員会を開催

・年４回の締め切りに合わせて、査読者を選定

・査読者の選定にあたりアンケートにより査読候補者名簿を活用

・迅速な査読者の確保と依頼、査読、査読依頼と結果通知の電子化を目標とし、採択された論文は新刊号にあわせて掲載、J-STAGE に即時フリー公開

（４）協会誌の段階的電子化

・協会誌電子化作業のうち、J-STAGE 登載を、（株）ジェイピーシーに継続委託

（５）協会誌編集委員会幹事委託費

・編集委員会幹事を松田健太氏（神奈川県総合リハビリテーションセンター）に継続委託

（６）論文賞に向けた検討

・査読論文小委員会を中心に、カンファレンス発表時に優れた発表に対し論文化を促すために、「優秀発表賞」を選定
・優秀発表賞は座長推薦から行うが、受賞に至らなくても、推薦された論文発表は協会誌への投稿を促す
（7）協会誌発行の持続化に向けた検討
・SDGsの観点から郵送コストや紙資源の削減、および、情報保障の観点からのデジタル化等の推進
・2026年度中に発行形態を変更予定

１．４　分科会・SIG（担当理事：桂律也）

（1）SIG活動支援
・2025年度初めから全10SIGが協会内SIGとして活動
・SIGは、当法人が企画する事業を実現化する際に大変頼りになるパートナーであり、2025年度も同様に協働しながら当法人の活動の活性化を図る
・各SIGのSIG活動費のあり方についても検討予定
（2）SIG合同企画の開催
・全10 SIGが法人内SIGとして活動開始したのに伴い、10 SIG個々の主体的な活動を尊重しつつ、複数のSIGによる合同企画の開催に向けて検討
（3）各SIGの活動計画
詳細は「2025年度 SIG活動計画」として別紙１に提示

１．５　分科会・支部（担当理事：小島みさお・植田瑞昌））

（1）支部への活動支援
会員はいずれかの地域の支部に所属し、各支部ではリハ工学に関わる人的ネットワークを構築
協会誌やホームページで全支部からの情報を掲載し、会員への周知を図る
支部ごとで活動状況に差があるため、2025年度は本部や他の委員会と協力し、さらなる支部活動への支援を積極的に行う
・継続的な活動が行えるよう、活動経費として支部活動金を配分
・2025年度も引き続き支部活性化のための情報発信の簡便化や効率化等について検討
（2）各支部の活動計画
詳細は「2025年度 支部活動計画」として別紙２に提示

１．６　企画推進事業（企画担当理事：伊佐拓哲・中村詩子）

（1）研修企画委員会の活動
・当協会会員サービスの向上および新たな会員獲得や発展に向けた事業について研修企画委員会にて検討
（2）協会主催セミナー等事業
・協会だけではなく外部団体と連携しジャンルを超えた意見ディスカッションを実施することで、 障害当事者の一助になるセミナー等を開催
（3）リハエ ミライ・アッセンブリー等の開催
・新たな会員獲得、及びリハ工学に関する知識や技術の普及促進を目的に、リハエ ミライ・アッセンブリーを有料化して引き続き定期的に開催
（4）協会設立40周年記念事業の検討
・40周年記念事業委員会にて企画の立案を進める

１．７　事業統括（事業統括担当理事：金井謙介）

協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のために以下の展示会出展および出展社セミナー等を開催

（１）学会展示会、広報活動強化

以下の展示会等へブース出展し、広報活動を実施。その際に、各地域の支部で運営できるように体制整備を進める

・H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）

リアル展:2025年10月8日(水）～ 10日(金) 10:00～17:00 （東京ビッグサイト西･南展示ホール）（東京都）

Web展：2025年9月1日（月）～ 11月7日（金） （H.C.R.Webサイト 特設サイト内）

・ニーズ・シーズマッチング交流会2025 東京会場：2025年12月18日（木）～20日（土）

・バリアフリー2026 2026年4月15日（水）～17日(金) インテックス大阪（大阪府）

・H.C.R.2026（第53回国際福祉機器展）の出展準備 2026年9月下旬～10月上旬予定

・各地域で行われている福祉機器展や関連学会についても、可能な範囲で出展を行い協会の広報等を行う

各地域支部やSIGとの協力を積極的に進めると同時に、可能な限りセミナー実施とセットで行う

（２）セミナー開催

各福祉機器展において出展機会を有効活用し、出展効果の向上とリハ工学に関する普及を促進する目的で、積極的に出展社セミナー・ワークショップを開催

・H.C.R.2025（第52回国際福祉機器展）（東京都）での出展社プレゼンテーション等を企画・開催

福祉機器コンテスト2025をテーマにセミナーと表彰式を実施

・バリアフリー2026（大阪府）での出展社セミナーを企画・開催

（３）合理的配慮の推進

障害者差別解消法の施行により、障害のある人に対する合理的配慮の実施が民間事業者にも求められている。当協会においても、主催セミナー・シンポジウムや支部事業、カンファレンス等において情報保障をはじめとする合理的配慮の実施が求められており、そうした社会情勢に対応するための体制づくりを継続して行う。

１．８　国際関連事業（担当理事：森田千晶・桂律也）

（１）国際関連団体との相互協定に基づく交流

・国際関連推進委員会委員２名をGAATO(Global Alliance of Assistive Technology Organizations)理事として各種会議出席（オンライン）

・RESKO(Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society of Korea)およびTREATS(Taiwan Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society)との協定に基づく、各団体カンファレンスへの相互の代表（２名の参加費免除）の参加支援。協会代表２名の選定方法と推薦方法についての検討

・当協会代表者のCREATe Asia(the Coalition on Rehabilitation Engineering & Assistive Technology of Asia)、RESKO、TREATS、RESNA(Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society of North America)等への参加希望者の参加支援

（２）国際連携推進委員会の開催

・当協会の国際連携等についてのアドバイスを行う国際連携推進委員会を設置し、Web会議システムにて年に2回程度の委員会を開催

１．９　災害対策関連事業(担当理事：早川康之)

（１）災害対策委員会活動

・災害対策委員会が持っている案件を解決するための委員会活動を活性化

・事業の実施に際して、活動開始までの段取りを、災害対策委員全員による検討ができるよう、Web会議システムによる会議を実施

（2）災害対策セミナー等の開催

・第39回リハ工学カンファレンスin東京　内で災害対策セミナーを開催

・協会の広報活動および会員獲得に向けたPR活動、公益活動のためにセミナー等を開催

・運営は災害対策員会を中心に各SIGや支部の協力を仰ぎながら企画し、当協会による平時からの災害対策啓発、技術伝承、及び災害時の福祉用具や住環境改善の対応等の内容を検討

（3）災害対策情報の提供

・高齢者、障害を持つ方向けの災害対策に関する情報について、ホームページ上での提供を進める

（4）他団体との協働

・(一社) 日本災害リハビリテーション支援協会 JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team) の正会員として、理事会、各委員会活動への参加

・JRATを中心とし、他団体との協力体制を構築

特に都道府県単位の地域JRATの活動に対して、リハ工学協会がどのように参加ができるか検討

・当協会の特長を生かせる災害対策を求めている災害対策関連団体を選定し、協力方法について検討

・災害関連イベントに関して、他団体との協働活動の可能性を検討

2　総務

2．1　規則・選挙（担当理事：江原喜人）

（1）2025年度代議員・役員候補者選挙

・2025年度代議員選挙を実施

・2025年度役員候補者選挙の準備

（2）規程の整備

・各種規程を整備し、必要に応じて改定

2．2　財務（担当理事：江原喜人・桂律也・金井謙介）

（1）法人会計の管理

・2025年度決算の実施

・2026年度予算案の提案

・四半期決算の実施

・インボイス対応

（2）分科会・支部の連結決算の準備

・分科会・支部の会計状況の把握

・会計システムの再構築および統合準備

2．3　総会･理事会（担当理事：北野義明・江原喜人）

（1）2025年度定時社員総会の開催

・2025年9月15日（月･祝）に定時社員総会を開催

方式：ハイブリッド参加型方式（書面による表決およびZoomウェビナーによるライブ視聴）

（2）2025年度理事会の開催

・年5回（2025年7月、10月、12月、2026年3月、6月）、通常理事会を開催

・審議内容に応じた会議方式（対面会議またはWeb会議）により開催

２．４　広報・渉外（担当理事：小林博光・鈴木太）

（１）協会リーフレット印刷

目的に応じて内容や部数を検討し、協会案内用リーフレットを印刷

（２）Web会議システム利用

・Web会議システムを活用し、効率的で経費負担の少ない事業運営を図る

（３）外部ストレージ利用

・理事業務を円滑に行うため、外部ストレージ（XServer Drive）を利用し、各種データを共有

（４）Web・メールサーバー等運用管理

・各種メール機能の設定、メールニュース送信

・Web運用及びコンテンツの情報更新について、管理委託を行う

２．５　事務局（事務局統括理事：江原喜人）

（１）事務局運営

・法人としての事務局を運営し、法人会計の更なる整備を進める

（２）会員管理システム導入の検討

・事務局体制支援を含めたシステム導入について検討

・イベント、セミナー等の集金システムとの統合・活用も検討

・必要に応じた委員会の設置

（３）展示会出展における広報活動

３　後援・協賛事業

・後援・協賛予定事業（主催団体と内容）は下記の通りである

No.		団体名	開催日程	内容
1	協賛	（一社）日本生活支援工学会、 （一社）日本機械学会、 （一社）ライフサポート学会	2025年8月27日（水） ～29日（金）	学術講演会LIFE2025
2	協賛	（NPO）　ヒューマンインタフェース学会	2025年9月10日（水） ～12日（金）	ヒューマンインタフェースシンポジウム2025
３	後援	（一社）日本作業療法士協会	2025年11月7日（金） ～9日（日）	第５９回日本作業療法学会
４	協賛	（公社）計測自動制御学会	2025年12月10日（水）、 12日（金）	第26回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会

【別紙1】

2025年度　SIG活動計画

※SIG会員数（協会員数）は2025年6月1日現在

SIG姿勢保持　会員数：24名　ホームページURL https://www.resja.or.jp/posi-sig/

代表者：繁成剛氏、　事務局長：児玉真一氏

・WEBサイト運営、会員専用MLへの情報発信、リハ工学協会事業への協力

・講習会：2025年9月20日（土）・21日（日）　SIG姿勢保持講習会in北海道（含むZoomウェビナー）

主会場：千歳市総合福祉センター

・役員会の開催：オンライン会議にて12月～1月ごろに開催予定

・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第2版）や用語集・資料集PDF版の販売

車いすSIG　会員数：39名　ホームページURL https://www.wheelchair-sig.jp/

代表者：沖川悦三氏、　事務局長：深野栄子氏

・役員会開催

・車いすSIG講習会

・車椅子の歴史調査

・車椅子関連の玩具や絵本や書籍等の収集

・WEBサイト運営、講習会の案内等のメール配信

・日本車椅子シーティング協会車椅子姿勢保持基礎講習会（障害分野）の共催

・リハ工学カンファレンス、プレカンファレンス等、協会事業への協力

・講習会テキストのバックナンバーおよび関連書籍の頒布

・車いすSIG設立35周年／講習会30周年／開催50回記念誌の頒布

自助具SIG　会員数（Facebookグループ登録者）：46名　ホームページなし

代表者（事務局兼務）：岡田英志氏

・第39回リハエカンファレンスin東京での自助具SIGのセッションへの参加

乗り物SIG　会員数：5名　ホームページURL https://ameblo.jp/sunrisejp007/

代表者：麸澤孝氏、　事務局長：片石任氏

・SIGブログの更新、情報提供、パラスポーツ情報発信

・セミナー開催（予定）、カンファレンスイベントのパネリスト、当事業への協力

SIG褥そう防止装置　会員数10名　ホームページURL https://www.resja.or.jp/sig-pmps/

代表者（事務局兼務）：新妻淳子氏

・事務局の引継ぎを含めて、SIG活性化につなげるような活動を実施する

コミュニケーションSIG　会員数：11名　ホームページ改修中

代表者・事務局：上野忠浩氏

・法人内移行に伴う体制整備

・ホームページ改修

SIG 住まいづくり　　会員数：31 名　　ホームページ URL http://www.sig-sumai.info

代表者：橋本美芽氏、　事務局長：鈴木基恵氏

・リハビリテーション工学協会事業への協力

・見学会開催。リハ工学カンファレンス開催日程に合わせて見学会を開催。

・SIG 内部移行化に伴う環境整備と活動方針の検討

・Web サイトリニューアルの検討

特別支援教育 SIG　　会員数 5 名　　ホームページなし

代表者：松田靖史氏、　事務局長：高原光恵氏

・リハ工学協会関連の行事への協力参加

・運営体制構築の検討

移乗 SIG　　会員数：16 名　　ホームページ作成中

代表者：古田恒輔氏、　事務局長：青木久美子氏

・リハ工協会事業への協力

・「リフト浴実技講習会」の共催（主催：福祉技術研究所株式会社）

（9 月：札幌市 社会福祉法人翔陽会 特別養護老人ホーム 清明庵 にて）

・「スリングの比較検討会」の共催（主催：福祉技術研究所株式会社）

（12 月： 神戸学院大学にて）

・ホームページの作成：昨年度より継続事業

・役員会の開催　4回　（　8月、11 月、2月、5月　）

義肢装具 SIG　　会員数：23 名　　ホームページ URL https://resja.or.jp/po-sig/

代表者：笹川友彦氏、　事務局長：砂野義信氏

・オンラインセミナー　（SIG 会員向け　参加費無料　SIG 役員による義肢装具トピックスを中心に）

【別紙2】

2025年度　支部活動計画

東日本支部

（1）概要

昨年度に引き続き今年度も、早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。東日本支部は広域であり、会議・セミナー・勉強会等については、Web 会議システム等を活用したいと考えている。東日本大震災等の災害の経験を活かして、地域JRATと支部の協力体制を構築していきたい。

（2）2025年度支部役員体制

支部長：桂律也氏

事務局：クラーク病院（桂氏）

連絡先：higashinihon@resja.or.jp

関東・甲信越支部

（1）概要

関東・甲信越支部活動として、昨年度より掲げている「災害対策キャンプ」のテーマおよび、第4回ミライ・アッセンブリーのテーマであった「障害者と災害を考ええる」を継続し、引き続き災害時に必要となるリハビリテーション工学的視点について知識・技術等の普及・啓発を目指す。

（2）主要事業

1）オープンチャット（LINE）「リハ工関東・甲信越支部」を活用した情報発信の試行

2）支部セミナーの開催（年1回程度）

・開催日：2025年度内予定(実施日未定)

・場所：ハイブリッド開催予定（会場は未定）

・テーマ案：脊損者による完全手動型車いすでの富士登山の全貌（仮）

・講師：関東・甲信越支部会員（予定）

3）第39回リハ工学カンファレンス in 東京の運営協力と支部ミーティングの開催

・開催日：2025年8月8日（金）～10日（金）

・会場：東洋大学赤羽台キャンパス

4）第52回国際福祉機器展ブース運営の協力

・開催日：2025年10月8日（水）～10日（金）

・会場：東京ビッグサイト（東京都）

5）ニーズ・シーズマッチング交流会2025（東京会場）ブース運営の協力

・開催日：2025年12月18日（木）～20日（土）

・会場：東京都立産業貿易センター（東京都）

（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力

後援・協賛・協力依頼等があれば随時検討

（4）その他

必要に応じて支部役員会を開催する。支部役員会の開催

（5）2025年度支部役員体制

支部長：沖川悦三氏（継続）

幹事　：水澤二郎氏（継続）

深野栄子氏（継続）
麸澤孝氏（継続）
植田瑞昌氏（継続）
片石任氏（継続）
河合俊宏氏（継続）
鈴木明子氏（継続）
岡野善記氏（継続）
石濱裕規氏（継続）
森田千晶氏（継続）
村田知之氏（継続）
事務局：神奈川リハビリテーション病院（村田氏）
連絡先：kkse@resja.or.jp

中部支部
（1）概要
年間2回程度の支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、関係諸活動の後援等、リハビリテーション工学に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。
（2）主要事業
1）支部セミナーの開催
第1回
・開催日：2025年度内(実施日未定)
・場所：愛知県内(予定)、 ハイブリッド開催も検討中
・テーマ：福祉用具見学会(製造企業等)
・講師：中部支部会員
第2回
・開催日：2025年度内(実施日未定)
・場所：ハイブリッド開催（会場は未定）
・テーマ：機器活用勉強会および事例検討会(介護テクノロジー等)
・講師：中部支部会員
2）中部支部会員間の交流
・SNSを利用した交流や，対面による支部ミーティングによる情報交換の機会を指向する
（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力
後援・協賛・協力依頼等があれば随時検討する
（4）その他
支部役員会の開催(随時開催予定)
・場所：基本的にオンラインにて実施する
（5）2025年度支部役員体制
支部長：渡辺崇史氏（継続）
幹事：　北野義明氏（継続）
長束晶夫氏（継続）
事務局：日本福祉大学(渡辺氏)
連絡先：chubu@resja.or.jp

関西支部
（1）概要
年間1回程度支部セミナーを主催するとともに、各種勉強会を開催する。さらに、バリアフリー2026への出展協力と協会主催セミナーの開催等の協会活動への協力を行い、リハビリテーション工学及び福祉用具・住環境整備等に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。
（2）主要事業
1）支部セミナーの開催（年間1回程度）
リハ工関西支部&頸髄損傷者連絡会との共催セミナー（2025年度関西セミナー）
・開催日：2025年10月25日（土）
・場所：神戸市内
・テーマ：世界一周セミナー　旅の魅力編（案）
2025年度関西セミナー（第40回リハ工カンファレンスのプレカンファレンスとして）
・開催日：2026年春
・場所：未定
・テーマ：カンファレンスのテーマに即した内容で今後検討（案）
2）バリアフリー2026運営協力および出展者セミナーの開催
・開催日：2026年4月15日（水）～17日（金）
・場所：インテックス大阪（大阪府）
・テーマ：未定
・内容：ブース運営スタッフの派遣、出展者セミナーの開催等
3）オープンチャットを利用した情報共有と支部会員の交流
（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力
現時点では特になし
（4）その他
支部役員会の開催
・開催日：2025年9月ごろ、2026年5月ごろ
・場所：オンライン会議、もしくは対面会議（大阪、神戸）
・内容：支部セミナー等の企画検討、2025 年度の事業報告・決算報告、2026 年度の事業計画案・収支予算案について等
（5）2025年度支部役員体制
支部長：　赤澤康史氏（継続）
副支部長：中村俊哉氏（新規）
松田靖史氏（新規）
幹事：　金井謙介氏（継続）
島本卓氏（継続）
林威智郎氏（継続）
剣持悟氏（継続）
宮野秀樹氏（継続）
太田智之氏（新規）
小坂菜生氏（新規）
丸岡稔典氏（新規）

事務局長：糟谷佐紀氏
事務局：神戸学院大学(糟谷氏)
連絡先：kansai@resja.or.jp

中国・四国支部

2024 年度より、支部体制構築に向け、有志による定例会議を実施している。早期に組織の編成を行い、今後の活動計画の策定に努めたい。中国・四国支部は会員登録数も少なく、会員獲得に向け、引き続き本部と連携し、体制構築に向け検討していく予定。

九州支部

（1）概要

引き続き、インターネットラジオ配信を行う。九州支部掲示板と合わせ、情報交換を行い、リハビリテーション工学及び福祉機器に関わる研究や知識・技術等の普及・啓発を図る。

（2）主要事業

インターネットラジオ配信を実施

配信内容候補

・障害者の生活に便利な道具や家電の紹介
・関連施設や企業を見学し、内容や感想を発信
・障害当事者へのインタビュー
・その他掲示板からのリクエスト等

（3）他学会等の事業への後援・協賛・協力

要請があれば検討する

（4）その他

支部役員会の開催 （メーリングリストで意見・情報交換、必要であれば適宜 Web 会議を開催）

（5）2025 年度支部役員体制

支部長： 小林博光氏（継続）
スタッフ：江原喜人氏（継続）
　　　　　辻奈美氏（継続）
　　　　　山形茂生氏（継続）
事務局：総合せき損センター(小林氏)
連絡先：koy@resja.or.jp
掲示板：https://resja9.apage.jp/
インターネットラジオ配信（stand.fm）：https://stand.fm/channels/65e6f8613e0b28cf81e52982

【資料５】

第４号議案　2025年度 収支予算計画（案）

2025年度　予算案

収入

コード	勘定科目	2024年度	2025年度	前年比
	＜入会金収入＞	50,000	50,000	0
1411	入会金(今年度分)	50,000	50,000	0
1412	入会金(前納分)			0
	＜会費収入＞	6,605,000	6,680,000	75,000
416	一般会費(今年度分)	5,350,000	5,020,000	△ 330,000
1416	一般会費(前納分)	250,000	1,000,000	750,000
1417	一般会費(下半期分)	125,000	100,000	△ 25,000
1419	一般会費(過年度分)	180,000	200,000	20,000
1420	学生会費(今年度分)	80,000	40,000	△ 40,000
1422	学生会費(下半期分)	20,000	20,000	0
1423	賛助会費(今年度分)	600,000	300,000	△ 300,000
1424	賛助会費(前納分)	0	0	0
	＜事業収入＞	2,002,000	1,760,000	△ 242,000
421	書籍頒布	100,000	50,000	△ 50,000
422	協会誌広告収入	130,000	100,000	△ 30,000
423	協会誌掲載料	160,000	160,000	0
1430	購読ｻｰﾋﾞｽ会費今年度	110,000	100,000	△ 10,000
1431	購読ｻｰﾋﾞｽ会費(前納分)	52,000	150,000	98,000
ー	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ関係収入	200,000	200,000	0
428	ｾﾐﾅｰ収入	150,000	100,000	△ 50,000
426	事業費雑収入	500,000	300,000	△ 200,000
429	その他の協賛金	600,000	600,000	0
	＜雑収入＞	705,000	2,310,956	1,605,956
471	受取利息471	5,000	5,000	0
472	雑収入472	0	0	0
	SIG統合	700,000	2,305,956	1,605,956
	【合計】	**9,362,000**	**10,800,956**	**1,438,956**

※△が減額

部門別支出

No.	部門名	所属組織	2024年予算	2025年予算	前年比削減額
1	理事	理事会	1,090,000	1,145,000	▲ 55,000
10	事務･管理	総務系	1,632,317	1,701,536	▲ 69,219
15	組織管理	総務系	324,000	100,000	224,000
20	広報	総務系	29,025	95,000	▲ 65,975
25	国際関連	事業系	162,000	105,600	56,400
30	企画推進	事業系	180,000	200,000	▲ 20,000
35	専門委員	事業系	327,699	335,985	▲ 8,286
40	SIG	事業系	450,000	400,000	50,000
50	支部	事業系	270,000	300,000	▲ 30,000
60	事業管理	事業系	1,093,500	1,285,000	▲ 191,500
70	カンファ･コンテ	事業系	168,300	114,000	54,300
80	協会誌	事業系	2,750,000	2,940,000	▲ 190,000
85	受託事業	事業系	0	0	0
90	予備･その他	その他	185,000	150,000	35,000
40	SIG統合	事業系	700,000	2,305,956	▲ 1,605,956

※▲が増額

総合計	9,361,841	11,178,077	▲ 1,816,236

2024予算収支	159
2025予算収支	-377,121

【資料６】

第５号議案　新役員の承認について

定款第34条により、新役員の承認の審議を行う。
2025年度役員候補者選挙により、選出された候補者は以下の通りである（50音順）。

＜理事候補＞

一木 愛子	神奈川県総合リハビリテーションセンター
植田 友貴	西九州大学
植田 瑞昌	日本大学
上野 忠浩	横浜市総合リハビリテーションセンター
金井 謙介	神戸学院大学　総合リハビリテーション学部
河合 俊宏	埼玉県総合リハビリテーションセンター
北野 義明	石川県リハビリテーションセンター
小島 みさお	東京都健康長寿医療センター研究所
小林 博光	総合せき損センター
徳田 良英	帝京平成大学
富田 藍	花はたリハビリテーション病院
早川 康之	北海道科学大学
渡辺 崇史	日本福祉大学

＜監事候補＞

水澤 二朗	啓成会

＜会計監査人＞
定款第33条　第2項により、会計監査人は設置していないため候補者はなし。

--------以下、役員選出に関連する規則の抜粋である（2025年8月1日現在）----------------

【定款】
第34条　理事及び監事並びに会計監査人は、社員総会の決議によって選任する。

（補足）
（役員の設置等）
第33 条　当法人に、次の役員を置く。
（１）理事11名以上15名以内
（２）監事2名
２　当法人に、会計監査人を1名おくことができる。
３　理事のうち、１名を代表理事とし、代表理事をもって会長とする。また、１名を副会長とすることができる。
４　理事のうち、若干名を業務執行理事とする。

【資料７】

第６号議案　定数不足による監事の留任について

2025年度役員候補者選挙により、定款第３３条により定数２と定められている監事について、1名の不足が生じている。このため、定款第37条3「定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。」に基づき、定数不足による監事の留任について、承認の審議を行う。
留任する監事（案）は以下のとおりである。

＜留任監事（案）＞
伊藤 和幸　　国立障害者リハビリテーションセンター研究所

----以下、定数不足による監事の留任に関連する規則の抜粋である（2025年8月1日現在）----

【定款】

（選任等）

第34条　理事及び監事並びに会計監査人は、社員総会の決議によって選任する。

（役員の任期）

第37条

３ 理事又は監事は、第33条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

４ 補充又は増員により選任された役員の任期は前任者又は現任者の在任期間とする。

（補足）

（役員の設置等）

第33条　当法人に、次の役員を置く。

（１）理事11名以上15名以内

（２）監事2名

２　当法人に、会計監査人を1名おくことができる。

３　理事のうち、１名を代表理事とし、代表理事をもって会長とする。また、１名を副会長とすることができる。

４　理事のうち、若干名を業務執行理事とする。